

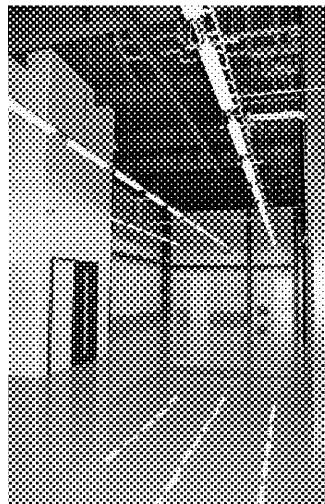
馬淵工業所、研究棟新設

再生エネ
機器開発など

産学官連携促進

【仙台】馬淵工業所（仙台市太白区、小野寿光社長）は研究棟を新設し、未利用熱発電システムや再生可能エネルギー機器の開発を加速する。実証実験に必要なボイラや熱供給設備を導入するほか、大学や公的研究機関などと遠隔で協業できる配信設備を充実させ、産学官連携を促進する。総投資額は約1億2000万円で、12月から具体的な活動に入る予定。

研究棟は敷地面積約3平方メートル。環境エネルギー344平方メートル、2階建。ギヤ事業に携わる8人で延べ床面積約31平方メートルが本社から移る。福島



研究棟1階にボイラや熱供給設備などを導入し実証実験を行う

県や韓国にある研究拠点が代表理事を務める産点ともネットワークを学官連携組織（持続可）つなぐほか、小野社長が「産学官連携促進」を

目指す新エネルギー活用推進協議会）の研究活動拠点としても運用する。

馬淵工業所は東京大学、宮城県産業技術総合センターとも共同で低価格のORC（有機ランキンサイクル）発電システムを開発中。

温泉や焼却炉、ボイラなどの廃熱をエネルギー源に最大出力5キロワットで発電し、蓄電池にためて有効活用することを目指している。新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の公募事業にも採択されており、2025年頃の実用化を見込む。23年4月の実証フェーズに入り、エーズ入りも狙っており「共同研究先である大学の研究室などよりモットでつなぎ開発を加速させる。なるべくオープンにして、みせろ。研究棟にする」（小野社長）意向だ。屋上には風力発電機と太陽光発電パネルを一体化した自社製の自立型ポールを設置。実証実験とシールドを兼ねた機能を持たせる。またリチウムイオン二次電池との連動で、災害などによる停電時の電力利用状況などを専用ソフトウェアで顧客に分かりやすく表示。提案型販売の改善につなげる。